

3	<p>様々な体験・実験・観察を通じて学びの本質を追究する「実学教育」をベースに教育活動を実施することを重視し実践している。中学では、東京農業大学食品加工技術センター・日本養殖振興会・グローバル教育関連業者等の支援を受ける。高校では、教科単位での校外学習（フィールドラーニング）を展開する。</p>	<p>実験・体験・観察を重視した科学的・学問的探究の精神・態度の育成を図る。</p>	<p>① 「総合的な学習の時間」の一環としての屋上菜園でのダイズ栽培と醸造体験（味噌作り）、養殖体験等を実施（中学）。 ② 博物館研修における調べ学習とプレゼンテーションの実施（中学）。 ③ フィールドラーニング（校外学習）の実施（高校）。</p>	<p>①～③とも 予定通り実施。特に中学校では STEAM 教育の一環として古墳見学等のフィールドラーニングを実施し、古墳という建造物の築造方法、道具、デザイン性などへの理解を深めた。キャリア教育講演会・外国人留学生との交流会、台湾の小学校とのオンライン交流会を実施。</p>	<p>①～③とも当初の予定を上回る規模で実施した。</p>	<p>A</p> <p>①～③とも、生徒の知的好奇心・探究心を涵養し、主体的な学習姿勢の確立に結びつけていくには、外部機関、卒の発想と支援を真摯に受け止め、近隣地域との連携を強化し「実学教育」と「知識の定着を図る学習」、「学びへの姿勢」をいかに融合させていくかの工夫と指導力が必要である。</p>	<p>A</p>	<p>実学教育と他の教育を融合させていくことは、かなりの工夫を要すると思われるが、継続して取り組んでほしい。 「探究の時間」をきっかけに色々なことに目を向けられる教育活動を展開してほしい。</p>
4	<p>中学・高校とも志願者を増加させ、入学定員の確保を図る。</p>	<p>① 高校：志願者数の増加と定員確保。 ② 中学：志願者数の増加と定員確保。</p>	<p>① 地域社会のニーズに即した教育改革の実行。 ② 広報活動の見直し。 ③ 説明会方法の見直し。</p>	<p>① 教育改革の具体策を講じて、発信する。 ② チラシ配布数と方法、公共交通機関や web 上での広報活動、説明会の実施。 ③ 体験型説明会の実施。</p>	<p>左記の具体的方策はいずれも実行した。中学募集の課題解決のために 3 回のウェビナー説明会、入試会場として所沢会場を復活させた。高校は定員確保できたが、中学は定員確保には至らなかった。中学入試は、経年的な課題である低倍率の入試からは脱却できなかった。中高とも女子の志願者・入学者の増加には一定の成果が見られた。</p>	<p>C</p> <p>高校は夏休みに開催された学校見学会の入場者数は増加したが、さらなる集客を図るために生徒主体の説明会の開催など新たな取り組みが必要である。中学入試では新たに STEAM 教育を教育内容の根幹に据えて発信した。志願者数は微増し、入学者数は 2 年連続で 60 代に乗り、都内等、遠距離からの入学者も増えたこともあり、特色ある教育と入試改革の発信をさらにも強めていきたい。</p>	<p>B</p>	<p>学校の明確なイメージの確立が十分でない。 中学募集では算数入試の導入等、試行錯誤しながら諦めずに努力してほしい。 高校募集では中学校での活動への加点等の工夫が見られる。志願者が増加し、さらに女子志願者と入学者が増加したことは高く評価できる。</p>